

パール通信

vol.14
2014.9



p2

イベント報告

●第5回平成26年度

伊勢新聞パール倶楽部全体総会

p3

イベント報告

●バリ島・シンガポール研修旅行
●シェニール織体験

p4

会員活動紹介

●セプテムプロダクツ代理店
近藤友美子さん

●

p5

会員活動紹介

●

新規会員紹介

p6

連載コラム

ビューティーコンサルタント林かづの
「伊勢志摩魅力再発見！」

p7

取材レポート

●UMO Uプロジェクト

p8

イベント案内

イベント報告

平成26年度パール倶楽部全体総会開催 井村屋グループの見学も

5月15日(木)、津市高茶屋の井村屋グループ株式会社で、平成26年度伊勢新聞パール倶楽部全体総会を開催しました。

平成25年度事業報告、同決算報告、会則変更、新役員選出、平成26年度事業計画、同予算計画の6議案が承認されました。

会則は、会の活動をさらに積極的に行うことができるように、理事の人数を12人以内に変更しました。

また、今年度は役員改選であり、中川千恵子会長が再任されました。新役員は次の通り、任期は2年間です(敬称略)。

会長 中川千恵子

副会長 小笠原まき子、土川禮子

理事 安藤智子、伊藤順子、伊藤ふみ代、稲垣和美、

加藤一子、川浪素子、

儀賀美智子、木下慶子、

竹腰葵、田中彩子、

水谷令子

監査 村田典子



新役員に就任した皆さん(総会出席者のみ)



講演する浅田会長

第二部は、井村屋グループ株式会社の浅田剛夫代表取締役会長による「特色経営の継続と新しい挑戦!」と題した講演がありました。

浅田会長は他人の真似をせず、自主自立で商品を作るという

色経営」の理念を紹介し、変えるものは変え、守るものは守る「不易流行」が基本であると話しました。そのうえで、「売り手(従業員)良し、買い手(消費者)良し、地域(CSR)良し」の考えを持って、常に新しいことに挑戦する大事さを語っていただきました。出席した会員はメモをとりながら熱心に聞き入っていました。

講演後、同社の「あずきバー」や「わもちアイス」といった人気商品の製造ラインを見学し、原料へのこだわりや徹底した品質管理の説明を受けました。総会終了後は、津市丸之内の東洋軒で懇親会を行い、会員同士の懇親を深めました。

浅田会長の講演を聞く出席者



イベント報告

バリ島、シンガポール研修旅行を実施 日本人墓地も見学

7月12日～17日、インドネシア・バリ島とシンガポールへの研修旅行を実施し、小林千三伊勢新聞社社長と会員ら7人が参加しました。

独自の文化が根付くバリ島では、インド洋に浮かぶ小さな岩の島にあるタナロット寺院や、岩に掘られた王と王妃の陵墓が並ぶ石窟遺跡グヌンカウイなどを見学し、悠久の歴史に思いをさせました。

また、伝統舞踊のケチャダンスも見学。上半身裸の男性のリズミカルな歌声に合わせ、男女の踊り手が披露する、ユニークな演舞を楽しみました。シンガポールでは、戦前戦後を中心にこの地で活躍した日本人が眠る日本人墓地を訪れました。シンガポール日本人会が管理する約1万坪の広大な霊園には、シンガポールに住んだ最初の日本人となった音吉やマレーのハリマオと呼ばれた谷豊らのほか、

大正時代に業を興した石原産業が先人を偲んで建てた碑もありました。

参加者は、戦争が彼らに与えた影響を思いながら、墓前に手を合わせました。



シンガポール日本人墓地を見学する参加者

イベント報告

地下1500mから湧き出る源泉 ラドン熱気浴体験を開催

9月17日(水)、菰野町湯の山の「三重県勤労者福祉センター 希望荘」でラドン熱気浴の体験を行いました。

7月11日にオープンした同館の健康増進施設「熱気浴ラドンの泉」は地下1500mから湧き出る源泉を床下全面に張りめぐらせ、気化する際にできる低放射線のラドンを吸入することで体の免疫力が高まるとされています。

参加者はそれぞれ問診票に記入

後、更衣室で専用の作務衣に着替え、熱気浴室に入りました。室内は気化したラドンの湯気で全体に高温になっており、サウナのような状態。30～40分ほど入って体を温め、汗を流しました。「たくさんの汗が出て血色がよくなった」「手がすべすべになった」などの感想がありました。

入浴後は懇親会があり、地元の食材などを使った料理をいただきました。

このほか同館内の「湯けむりの里」で露天風呂や檜風呂も楽しみ、参加した方々も満足した一日でした。



ラドン熱気浴を体験した参加者

みんなに良さを知ってもらいたい

会員活動紹介

近藤 友美子さん 株式会社セプテムプロダクツ 代理店



住所／いなべ市藤原町本郷1459-2
TEL／0594-46-2109

株式会社セプテムプロダクツ（本社・名古屋市中区）は、「Smile（笑顔）Pleaseasure（喜び）Tenderness（優しさ）をMake（創造）する」をコンセプトに、女性自立応援の会社として、化粧品やサプリメントなど美容に関する商品を扱っています。近藤さんは、同社の代理店業として活躍されています。

クリーニング店も営まれている近藤さんですが、もともと美容に関心が高く、本当に良いと思える化粧品を探していました。そんな時、店の従業員の方から「（この化粧品を使ったら）友達がきれいになった」と何度も聞かれます。「これは！」と思い、早速試してみたら品質の良さに引き込まれます。

会社が行う研修会に参加して、会社の方向性や人間味あふれるビジネスモデルに共感した近藤さんは「この良さをみんなに知ってほしい、この会社と一緒に輝きたい」と思い、約10年前にビジネスにすることを決心しました。ネットワークビジネスにありがちな在庫を抱えることもなく、商品はお客様が自ら通販で購入するシステム。代理店としては情報伝達をするのが役割でした。主婦でも始められることに加え、何よりも自信を持って商品を勧めることができるため、共感してくれる仲間も増え、やりがいを感じています。

趣味は日本史や神社仏閣。日本伝統の「和」の文化が大好きで、着付けや煎茶教室、和菓子作りにも通っているそうです。また、夫の一夫さんはチェンソーカーバー。一夫さんの友人と娘さんの内装協力も得て、建てたログハウスは5月に完成しました。自然に囲まれたいなべの地で、木のぬくもりを感じられる落ち着いた空間になっています。

会員イベント報告

生活彩花こころでシェニール織を体験

6月23日（月）、森豊美さんが代表を務める「生活彩花こころ」（鈴鹿市住吉）で、会員の稲垣和美さん、竹内喜代美さん、水谷肅代さん、山本恵さんの4人がシェニール織の手織り体験をしました。

シェニール織は、あらかじめ絵柄になるようにデザインされたストライプ状の織糸を丁寧に織っていきます。優しい肌触りと、華やかながらも温かみのある風合いに仕上がるのが特徴で、自分のオリジナル作品を作ることができます。同店はレアメイド公認手織り教室となっており、県内で体験できるのはここだけです。

初めて体験する4人は、森さんの丁寧なアドバイスを聞き、図案を見ながら、足踏み式の織機を使って、コスモスやフルーツなどの絵柄のハンカチを織り上げました。



体験した皆さん（右奥から稲垣さん、竹内さん、講師の森さん、山本さん、手前は水谷さん）



図案をよく見ながら、横糸を織っていきます

体験希望の方は「生活彩花こころ」まで。

住所／鈴鹿市住吉4-8-6
TEL・FAX／059-337-9016

あしなが育英会報告

「仙台レインボーハウス」を中川会長が訪問

あしなが育英会は、東日本大震災・津波遺児とその家族にとつての支援や出会いの場であり、遺児たちに寄り添いケアする拠点として、仙台、石巻、陸前高田に「東北レインボーハウス」を建設しました。3月1日に仙台、3月25日に石巻、6月29日には陸前高田で竣工しました。建設費用は全額が国内外からの寄付によるものです。

「あしなが東北レインボーハウス建設募金」への寄付総額は約49億円（約4万7000件）となり、目標としていた41億5000万円を上回る寄付金が集まりました。目標金額を超えた寄付は運営費に充てられます。

仙台市青葉区にある「仙台レインボーハウス」を、当会の中川千恵子会長が訪れました。

仙台駅から徒歩圏内にある仙台レインボーハウスは、専門学校の校舎だった既存建物をリニューアルし、多目的ホールを増築。最大100人規模の宿泊行事も可能です。全国から震災遺児が集まる「家」であり、東北での遺児支援活動の拠点を目指しています。4階建て、床面積2285平方メートル。主な機能は①遺児と家族の出会いと交流②家庭訪問の拠点③遺児を支えるファシリテーターの養成④遺児家庭の実態把握と調査研究⑤全国や世界への情報発信⑥地域の子ども支援団体や行政・教育機関への施設開放⑦防災拠点として非常用食糧等の備蓄などです。

会員の皆様には快く支援にご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。当会は今後も、震災遺児支援をはじめ様々なかたちでチャリティーや社会貢献活動に取り組んでいく予定です。



新規会員紹介

平成26年9月20日まで

鈴鹿市

伊藤しのぶ様 森石油有限会社

新見有紀子様

津市
森 豊美様 生活彩花こころ

前野優紀様

YUKIビジネスサポート社会保険労務士事務所

玉城町

東谷朝子様 美多みん

*掲載順は地域別区分後、五十音順となっております。

パール通信

掲載希望者募集中！

「会員活動紹介」などのコーナーに登場していただける方を募集しています。パール倶楽部会員であれば、自薦・他薦は問いません。事務局が取材にお伺いします。イベント告知、新商品やサービスのご紹介を掲載することも可能です。新規入会希望の方も歓迎します。

また、パール倶楽部ホームページ、伊勢新聞本紙への掲載希望の方もお問い合わせください。可能な限り、対応させていただきます。

お気軽に事務局までご連絡ください。

ビューティーコンサルタント 林かづの

伊勢志摩
魅力再発見!

vol.14



こんにちは。伊勢志摩の癒しのパワーでいつまでもキレイに健康に♪をコンセプトに、活動している林かづです。

今回は、最近若い人たちの間でも見直されてきた「着物」についてお話したいと思います。先日、雑誌の広告の中に「きもので東京オリンピックをお迎えしましょう」というキャッチフレーズを見かけました。外国の方々は、やはり日本人の和服姿は、憧れるのでしょうか。是非2020年たくさんの方が和服でお出迎えできるといいなと思いました。さて、きものを着るメリットはたくさんあって、大きく3つに分けられると思うのです。それは、「心」「技」「体」。武道でもよく聞かれるこの3つの言葉ですが、きものにも当てはめられると思います。まず「心」。よくきものを着ると「気持ちがシャんとする」ということがあります、みなさんもそういう経験があるのではないのでしょうか。気が引き締まるような感じがします。そして「技」。い

つもより丁寧な所作を心がけますよね。さらにきものは、着こなし方の奥が深く、形がシンプルなだけにちょっとした工夫で見え方、着やすさが変わってきます。できるだけ綺麗に見られて、楽に着こなしには、考える。それが脳トレにも繋がります。それから「体」。帯をすることや腰紐をすることで、自然と体幹が整う。特に腰紐は、おへその下の丹田を意識することにもなるので、丹田を引き締めるとおのずと姿勢が整います。姿勢が整うと洋服を着こなすときにも決まりますし、ケガや病気を防ぐことにも繋がります。又、きものを着たときは、体の使い方を工夫すると着崩れを防ぐことができますよ。特に歩き方では、手と足を同じ側に出すような「ナンバ歩き」で。能の歩き方や阿波踊りの踊り方がこれにあたりますが、この体の使い方が体を疲れにくくすると言われています。無理に体をねじらないからなのですね。きものにはこういった、気持ちを整え、所作を整え、体を整えることができるメリットがあるのです。

先日「外宮さんゆかたで千人まいり」に行ってきました。着こなし方の勉強にと、できるだけ行くようにしています。というのも、いろいろな世代の方、特に50代60代の方々のこなれた着こなしが見られます。最近では、三重の地元の「松阪木綿」や「伊勢木綿」、「御糸木綿」などで来られている方もいらつしやいました。お店でならんでいるだけでなく、実際に拝見できるのでヘアメイクとのトータルな合わせ方もとても勉強になります。「ああ、こういう帯との合わせ方もあるのか」などまさにファッションショーを見ているようで楽しいです。20代、30代の方々が思い思いの着こなしで浴衣を楽しんでいました。特に以前に比べ男性が多くなっているのも嬉しいですね。是非、皆さんもまわりの人を巻き込んで、普段からきものを着るようにしていきませんか。きっと新しい何かを得られると思いますよ。そして「東京オリンピックにはきものでお出迎え」しましょう。

プロフィール

● 林 かづ

鳥羽市在住。伊勢市出身、伊勢高校卒業。ビューティーコンサルタント、ヨガイストラクターなど立派な現職。現在は団体職員。伯父は宇治市田商業高校卒業。元読売巨人ピッチャーで現JR東海ピッチャー

取材レポート

UMOUプロジェクト ～羽毛製品が募金になる仕組み～

家庭に眠っている羽毛を回収してリサイクルすることで赤い羽共同募金に寄付され、その募金額が自分たちの町に還元される仕組みがあります。明和町から始まった、環境にも地域にも人にもやさしい取り組み「UMOUプロジェクト」を紹介します。

●羽毛製品はリサイクルできる

現在使っていない羽毛布団やダウンジャケットなどの羽毛製品は、解体・選別して洗浄するときれいな羽毛原料になり、その原料を使った新たな羽毛製品ができあがります。

暖かくて軽い、高機能な羽毛ですが、中国市場での急激な需要拡大や食生活の変化などで供給が危機的状況になっています。また羽毛は約半分が炭素でできており、燃やすと多くの二酸化炭素が発生します。循環資源である羽毛の再利用は環境保全にも貢献するのです。

しかし、羽毛が再利用できることを知らずに、不要なものはゴミとして焼却したり、押し入れに眠ったままになっている人が多いのが現状です。



機械で洗浄される羽毛
(白く見えるのが羽毛です)

●世界最大級の技術と設備を持つ河田フェザーと明和町内の子ども、社会福祉協議会、共同募金会などが連携

明和町山大淀の河田フェザーは羽毛の精製加工に関して世界最大級の設備を持ち、独自技術を持つ会社。羽毛をリサイクルするには、羽毛を乾燥させるために降雨量が少なく、豊富な軟水が必要という理由から、同所に工場を構えて約40年になります。同社の世界オンリーワンの技術があるからこそ、このプロジェクトが成り立つのです。

明和町では3年ほど前から児童やPTA、町内会、同町社会福祉協議会、同町共同募金委員会が連携して、羽毛製品の集団回収を行っています。回収した製品は河田フェザーの関連会社「エコランド」が、羽毛布団(1kg以上)1枚につき20円で買い取り、三重県共同募金会に募金されます。赤い羽根共同募金は、三重県では募金額の8割が自分の町の地域福祉に寄付され、残りは県広域での社会福祉活動に使われます。このプロジェクトに関して明和町では、赤い羽根共同募金から全額、回収した学校へ配分しています。

この明和町の取り組みをモデルとして、県共同募金会は県内29市町の社会福祉協議会・共同募金委員会が連携して、羽毛製品を回収する仕組みを確立しています。

●障がい者の就労支援も

さらに障がい者の就労も支援しています。プロジェクトに参画している明和町社会福祉協議会の障害者福祉サービス事業所「ありんこ」は、町内各地区で地域住民と一緒に羽毛製品の回収活動を行っています。利用者の中には河田フェザーの敷地内で、回収した羽毛布団を裁断して羽毛を取り出す作業を受け持つ人も。使用されていない廃品が有価物に変わり、障がい者の賃金の一部にもなっているのです。



羽毛布団の中の羽毛を取り出す
「ありんこ」の通所者

●今秋から再生羽毛製品が発売

10月下旬から、河田フェザーが独自の洗浄回復処理をした再生羽毛「グリーンダウン」を使用した婦人用コートと羽毛肌掛け布団が発売になります。衣料品や布団に使われるのは国内初で、今後ますますの利用拡大が期待されています。

皆さんも眠っている羽毛製品があればお持ちください。回収のお問い合わせは、最寄りの共同募金委員会(社会福祉協議会)または三重県共同募金会＝電話059(226)2605＝まで。



羽毛布団を寄付した中川会長(左)と、回収するエコランドの黒田社長

パール倶楽部イベントのお知らせ

京都ツアー兼忘年会のご案内

古都の風情を楽しみながら、初冬の京都・東山エリアを散策します。忘年会を兼ねた昼食は、ミシュラン2つ星の割烹「祇園にしかわ」で本格京懐石を堪能していただけます。お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

日時／平成26年12月3日(水) 一次締切／10月29日(水)

場所／京都市 清水寺、祇園にしかわ、八坂神社ほか

行程／県内出発～清水寺、高台寺見学

～昼食・忘年会(祇園にしかわ)～八坂神社、丸山公園、知恩院(自由散策)～県内到着

料金／20,000円(昼食代、入場料含む)

※昼食場所の人数に限りがあるため、希望者多数の場合はお断りする場合がございます。

※参加人数により、料金が多少変動する場合がございます。あらかじめご了承ください。

～ 別紙案内にてお申し込みください ～

伊勢新聞パール倶楽部事務局



〒514 - 0831

三重県津市本町34番6号

株式会社伊勢新聞社販売部内

TEL : 059 (224) 4400

FAX : 059 (223) 0444

HP : <http://www.isenp.co.jp/plc/>



表紙Photo

伊勢新聞パール倶楽部全体総会懇親会での記念写真
＝津市の東洋軒で